



府内城跡改修工事の 見学会に参加して

先日、大分市荷揚町の府内城跡（県指定史跡）の西側土堀の復旧工事見学会に参加してきました。この城跡は、大分県の重要な史跡であり、文化財としても高い価値を持っています。しかし、昨年7月の豪雨により土堀の一部が崩れ、その修復が急務となっていました。

土堀の内部調査と江戸時代の 発見

復旧工事をきっかけに、土堀の内部調査が行われました。この調査により、江戸時代に作られたとされる土堀が発見され、その構造が明らかになりました。普段は見ることのできない土堀の内部構造を目の当たりにし、その歴史的価値に感動しました。府内城跡西側土堀は、植物性の繊維材（すさ）と土を混ぜ合わせた土塊と、石灰と土を混ぜ接着の役割を果たす土からできている伝統的な工法で築かれており、当時の技術の高さには驚かされます。また、これまでの工事履歴もしっかりと残っており、昭和41年の工事、平成5年の工事と、年代により異なる工事が行われた形跡が目視できました。



復旧工事の内容と意義

今回の復旧工事では、歴史的な価値を損なわないよう、可能な限り元の材料と工法を用いることが重視されています。市教委文化財課担当者から、修復作業の重要性について説明がありました。今後もこの貴重な文化財を次世代に引き継ぐことが可能になるでしょう。

今回の見学会を通じて、府内城跡の復旧工事の重要性を実感しました。崩れた土堀の修復だけでなく、歴史的な発見と未来への取り組みに感銘を受けました。大分県の皆様の努力に敬意を表し、府内城跡の保存活動を応援します。また、機会があれば再び見学会に参加し、その進展を見守りたいです。府内城跡が新たな姿で蘇る日が楽しみです。

編集担当：廣度院練堀保存委員会